



読書の取り組み～読書週間～



あやめホールのホワイトボードには、6つのパズルが出来上がりました。このパズルは読書パズルということで、図書委員会の企画で取り組んでいるものです。読書週間として約3週間、読み聞かせやスタンプラリーを行い、読書を進めていく活動です。

パズルは、スタンプラリーの一環で、学年ごと決められた冊数になるとスタンプがもらえ、スタンプをためていくと、パズルのピース



を一つもらえます。そのピースをホワイトボードにある台紙に貼り付けていきます。全員が決められた冊数を読み切ると、そのパズルが完成するわけです。パズルの絵は、「はらぺこあおむし」や「名探偵コナン」など子どもたちにとって馴染みの深い作品ばかりです。普段から読書好きな子どもたちも、更に興味を持って意欲的に読書を進めていました。

もう一つの取り組みとして、「読み聞かせ」があります。朝の時間を利用して、担任と違う職員やボランティアの保護者の皆様が自分のおすすめの本を読み聞かせします。子どもたちもいつもと違う大人が読み聞かせをしてくれるということで、興味深く、また真剣な表情で読み聞かせを聴いていました。



今学期の読書週間は終わりますが、図書館で是非たくさん本を借りて、本と触れ合ってほしいと思います。

今回ご協力いただいた保護者の皆様、ありがとうございました。

福祉の学習～4年生 白杖体験～



4年生は、福祉の学習に力を入れています。市の社会福祉協議会の皆様にも協力していただき、障害を抱える人たちの目線で見た施設・設備や身の回りの様子について学習しています。

先日はその一環として、学校の施設の中で「バリア」の場所と「バリアフリー」の場所を見つける活動を行いました。

「バリア」の場所、初めて聞く言葉でしたが、

活用する人たちにとって、壁になっている場所のことです。

「わずか数cm上がっているだけでも、車いすや松葉杖の人にとって見れば大きな障害です。」

社会福祉協議会の方が言う通り、学校にある玄関の段差や階段など多くの場所で「バリア」を見つけることができました。一方、玄関ポーチのところにあるスロープは「バリアフリー」です。

施設設備について考えた後は、白杖体験を行いました。目隠しの代わりに特別なゴーグルをつけて、手には白い杖を持ちます。ペアの子の肩に手を添えて、学校内を歩いてきます。「段差があるよ。」「ここに座るよ。」など一緒に歩く子もサポートの仕方を考えながらの活動でした。目の不自由な人の苦勞を知ると共に、一緒に生活するためにどんな言葉かけができるか、どんなサポートをすればよいのか、を学ぶことができました。

